



里親になりませんか？

県では、さまざまな事情から家庭で生活することができない子どもを、家族の一員として迎え入れ、愛情と誠意をもって養育してくださる里親を募集しています。県独自の短期預かり里親登録制度もあります。

北部児童相談所では、里親に关心のある人や養子縁組・特別養子縁組を検討している人への相談会（里親制度説明会）を開催します。

（問）北部児童相談所
（☎）20・1010

第6回

（期）令和8年3月5日（木）
（時）午前10時～正午
（場）県渋川合同庁舎2階201会議室
（対）里親に関心のある人や養子縁組・特別養子縁組を検討している人
（費）無料

（申）予約は不要です。

（期）令和8年3月5日（木）
（時）午後1時～5時（受け付けは午後4時まで）
（場）群馬司法書士会別館
（問）群馬司法書士会
（☎）027・224・7763

（期）12月20日（土）
（時）午後1時～5時（受け付けは午後4時まで）
（場）群馬司法書士会別館
（問）群馬司法書士会
（☎）027・224・7763

司法書士による年末困りごと無料相談会

群馬司法書士会では、「年末困りごと無料相談会」を開催します。借金、労働トラブル、消費者トラブル、養育費不払、相続などあらゆる困りごとに對し、司法書士が相談に乗ります。

第127回企画展
「愛の手紙—友人・師弟篇—」

友人や師弟に宛てた手紙を紹介する企画展です。手紙は、もともと公表を前提としておらず、特定の個人にあてた私事が書かれたものが大半であるため、文学者の素顔や本音に接することができる資料と言えます。本展では、日本近代文学館所蔵の資



火曜日、12月27日（土）～1月7日
（場）県立土屋文明記念文学館
（問）県立土屋文明記念文学館
（☎）027・373・7721

（期）令和8年1月18日（日）まで
（場）県立土屋文明記念文学館
（問）県立土屋文明記念文学館
（☎）027・373・7721

▼休館日

料を中心に、近代文学者の書簡をエピソードとともに紹介します。夏目漱石や芥川龍之介ら文学者たちが友人や師弟に贈った言葉に触ることで、彼らの人柄や生活、作品背景などを知り、文学作品そのものをより深く味わう契機となれば幸いです。



よしおか支え愛マップづくり (北下・南下自治会)

9月28日、町と町社会福祉協議会は老人福祉センターでよしおか支え愛マップづくりを開催し、自治会役員や消防団員、民生委員が参加しました。支え愛マップづくりとは、高齢者世帯や障がい者などで支援を必要とされている人を地域ぐるみで支え合うため、住民自らが地図上に関係性などの情報を書き込んで見える化するものです。今後は、これをもとに地域のつながりを強めるとともに、マップ更新を毎年実施していく予定です。



いきいき健康教室

9月から10月にかけて文化センターにて、いきいき健康教室を開催しました。身体を動かすことの大切さを学びながら、ストレッチや筋トレを行いました。毎回行われた脳トレでは、参加者の笑い声が溢れました。



第1回 人生100歳時代～80歳の壁がある？それを超える日常生活の改善は？シニア世代が10歳若返る～



第2回 救急車の呼び方・AEDの使い方

エナジーカレッジ

文化センターでは10月に、町内に住む60歳以上の人を対象としたエナジーカレッジを開催しました。異なる講座内容を全5回実施し、生活に役立つ情報について学びました。



赤十字救急法講習

10月19日・25日・26日に、文化センターで赤十字救急法講習を開催しました。

日本赤十字社救急法指導員の指導のもと、急病やけがの手当の基本、心臓マッサージ、AEDの取り扱いなどを学びました。最終日は学科と実技の検定を受け、参加した17人全員が合格となりました。検定合格者には、「赤十字ベーシックライフサポーター認定証」と「赤十字救急法救急員認定証」が交付されました。参加者からは「良い経験になった」「また機会があれば参加したい」という声を聞くことができました。



▲上野田ふれあい公園

吉岡町「吉岡」誕生70周年記念 写真でみる「吉岡」いま・むかし

History of Yoshioka



▲城山みはらし公園

上野田ふれあい公園と城山みはらし公園

上野田ふれあい公園は、2006(平成18)年4月に完成した公園で、広場と散策コースを囲んでウォーキングコースがあります。春には桜が満開になるため、花見を楽しむことができます。

城山みはらし公園は、2019(令和元)年4月に完成した公園です。敷地内には有事の際に用途を変えられるベンチや、東屋のある自由広場や防災備蓄倉庫があることから、防災公園としての役割があります。



とも RUN伴ぐんま2025

RUN伴とは、今まで認知症の人と接点がなかった地域の住民や企業、商店などが、認知症を生きる本人や家族、医療福祉関係者などと一緒にタスキをつなぎながら走る、まちづくりのイベントです。10月16日、17日、18日の3日間で行われ、10月17日には役場で出発式が行われました。

おもしろ科学教室

10月18日、文化センターで、おもしろ科学教室を開催しました。今回の教室では、お菓子の筒など身近な材料を使って、手作りの望遠鏡を作りました。参加した児童はみな集中して製作に取り組み、自分だけのオリジナル望遠鏡を作ることができました。



令和7年度吉岡町戦没者追悼式

10月21日、文化センターで吉岡町戦没者追悼式を挙行しました。ご遺族とご来賓の皆さまが参列くださいり、ご靈前に追悼の意を表しました。

先人たちの歩みを振り返り、私たちが享受している平和な日常を、持続可能なものとして、若者世代へと引き継いでいけるよう願いました。

男性料理教室

10月25日、保健センターで「男性料理教室」を行いました。この料理教室は、健康維持に向けて男性の食事づくりをサポートするために、食生活改善推進員が講師となり、毎年行われています。

11人が参加し、「減塩の料理だったがおいしく食べられた」「これからは、少しずつ料理をやってみようと思った」「家でもこのレシピを使って作ってみます」など、料理を身近に感じていただけた様子でした。



友好都市 大樹町通信

秋サケ料理教室

10月1日、大樹漁業協同組合女性部主催の秋サケを使った食育学習が大樹小学校で行われました。座学では、実際の漁具や定置網の模型などを見ながら秋サケ漁について学びました。料理の時間では、秋サケのオスとメスの見分け方について学んだ後、三枚おろしや、身をほぐしてフレークにしたり筋子をほぐして「いくら」にしたりする体験をし、昼食に秋サケ汁といくら丼にして秋の味覚を味わいました。



このコーナーでは友好都市大樹町の魅力を町民の皆さんに紹介します。